

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100375		
法人名	社会福祉法人 紀伊福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム てまりの里		
所在地	和歌山県和歌山市府中20-1		
自己評価作成日	平成23年2月4日	評価結果市町村受理日	平成23年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3090100375&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成23年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用者お一人おひとりの心に寄り添うケアに努めています。・有用感を持っていただけるようお一人おひとりが活躍できる場(得意分野)作りを積極的に取り組んでいる。少しでもきたらもっともって出来るよう達成感を味わっていただくよう努めています。・地域社会に出かけ社会との関わりを多くもてるように努めています。・ご家族様と一緒に過ごせる機会を作り絆を深めて頂くよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりが味わう有用感・達成感が更なる力の発揮に繋がる事を、全ての職員が確信しケア実践の基本としている。利用者の健康管理や医療面については、認知症専門医である関連医院の医師に常に相談や診察の依頼ができる体制となっており、不安なく介護にあたる事ができる。また地域とのつながりは事業所が重視する課題の一つであり、交流は着実に拡がりつつあるが、現状で満足する事なく地域で必要とされる活動や役割を積極的に担う事を通して連携が更に深まるよう取り組みを強化している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念を作り管理者と職員はその理念を共有するために毎朝ミーティングの時に読み合わせを行い、かつ、グループホームの独自の目的も合わせて実践につなげている。	小規模多機能型居宅介護と共通の事業所理念及びホーム独自の目的を毎朝唱和する事により管理者と職員は理念の共有を確認すると共に、日々のケアを通して得られた気付きを実践につなげるべく決意を新たにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを持てるように地域の行事や祭りにご利用者ともども積極的に参加している。現在は地域の方々と日常的な交流が進んでいる。	事業所として町内会の会員となっており盆踊り等の行事にはほぼ全員の利用者が参加している。また地域の文化祭には企画委員として参加し、利用者の作品を出品している。行事等の参加に際しては、地域の方々のボランティアとしての協力が欠かせないものとなっている。地域の一員としての日常的な交流は進んでいるが、事業所としてはまだ十分であるとは考えていない。	事業所が地域福祉の拠点となるという理念の実現に向け、地域との交流が更に深まり事業所と地域の人々が互いに支え合うような双方向関係が築かれる事を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて研修会を開いたり年4回「てまりランド」と「グループホームだより」を発刊し認知症の啓発に努め地域の方々にご理解頂き相談者には納得が行くまで説明を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者やサービスの実際・評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、ご家族様やご利用者様・地域の代表者の方々や支所長に集まって頂きそこでの意見や要望などをサービス向上に活かしている。	利用者家族・地域代表・行政職員・専門職等の参加を得て2月に1回運営推進会議が開かれている。事業所の取り組み内容を報告するとともに、参加メンバーから質問や課題に対する意見・要望を受ける双方向的な会議となるように心掛けており、そこでの意見・要望をサービス向上に具体的に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の「てまりランド」と「グループホームだより」を市町村に置いて頂いている運営推進会議には支所長に参加して頂き地域や市政の情報やアドバイスを頂戴している。日頃からも相談し地域の行事に参加するなど協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所の定期発行の広報紙を届ける際や運営推進会議への出席の際に、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え情報の共有を図っている。また地域の行事の運営等についても事業所として積極的に参加する事により行政との協力関係は築かれつつある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については全職員が正しく理解しており身体拘束をしないケアを実践している。玄関やご利用者の居室の施錠をしない事は当然の事ととらえています。	3月に1回の内部研修及び随時の外部研修への参加により代表者及び全職員は禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解している。建物の設計段階での考慮に加え他事業所（小規模多機能型居宅介護及びデイサービス）の協力を得て、玄関や居室の施錠を含め身体拘束をしないケアへの取り組みを徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう職員間で指摘し合い虐待の危険を早期に気付き防止改善し処遇に当たるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見人制度について研修会を開いている。パンフレット等に施設入口に置いている。ご利用者にはこの制度がある事を説明し制度が活用できるよう支援している。現在はまだ利用されていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書をもとに十分に説明を行い利用者や家族等の不安・疑問点を尋ね十分な説明を行い安心してサービスのご利用を頂けるよう利用者や家族等に理解・納得をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には面会に来られた時に随時意見や要望を聞いていますが2か月に一度運営推進会議を開催しご利用者や家族が意見要望を管理者や職員・外部者へ表すことができ、又、「意見箱」の設置をしてより広く要望を表せる機会を設けそれらを運営に反映させている。	利用者の意見・要望の聞き取りは難しい場合もあるが日々のコミュニケーションの中から職員が汲取っている。家族については面会時、支払いの為の来訪時、行事实施時等に直接聞き取りをしている。運営推進会議は意見・要望を外部者へ表せる機会であり、家族には交替で出席してもらっている。意見箱の利用は少なく口頭による場合が多い。出された意見・要望は、可能なものは即応し他は話し合いで手順を決める等運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けスタッフ会議も頻回に行っている。職員からの意見を運営に反映させている。	基本的には10日に1回開かれるスタッフ会議がその機会となるが、毎朝のミーティングや週1回のケアカンファレンスが意見や提案を聞く場となる事もある。出された意見や提案はスタッフ会議での代表者・管理者・職員によるスクリーニングを経て実施に移されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し給与水準・労働時間・やりがいなど各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。有休や公休も本人の希望を考慮している。又、モチベーションを上げる環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し法人内外の研修を受ける機会の確保や介護技術やご利用者の処遇・ご家族や来苑者の対応など働きながらトレーニングしていくことを進めて行く。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作りネットワーク作りや勉強会・相互訪問等の活動を通じてサービスの質の向上させていく取り組みをしている。母体施設の行事に参加してそのグループホームとの交流する取り組みをしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で本人が困っている事や不安な事・要望等に耳を傾けながらご本人が安心できるよう環境を整備し安心を確保するための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で家族等が困っている事・不安な事・要望等に耳を傾けながらご利用者様の様子を随時報告し離れていても安心してまかせて頂けるような信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で本人と家族等がまず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。なるべくご家族様にも協力をお願いしご家族様との絆を大切にするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を介護される一方の立場に置かず過去に働いた事や得意とされる分野の事など人生の大先輩として尊敬し指導を頂きながら暮らしを共にする者同士支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活においてご本人の生活状態はご家族が来苑時にご報告したり要望などを聞いたり又、広報誌に載せたりご家族と一緒に行事に参加して頂いたりご家族様の絆を大切にしながら共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されても馴染みの関係が継続できるよう再々訪問していただけるよう 又、入居された方が出かけていき馴染みの人々や場との関係が継続できるようご家族にもご協力をいただきながら支援している。	家族のかかわりを重視する観点から、利用者本人の希望を家族に伝え、地元の人や幼馴染みの人への訪問やホームでの面会が実現するよう協力を依頼している。家族の都合により実施が難しい場合は地元のボランティアの方の協力を得て出掛ける事により馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲良く安心して過ごせるように利用者様の性格等考慮し一人ひとりが孤立せずにより関係で関わり合い支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、退苑されたりサービス利用が終了された方はいないが契約が終了してもいまままで培われた関係を大切にしながら家族や本人の経過をフォローし相談や支援に努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の把握に努め食事に対しての嗜好が激しく制限が多い。利用者に対しては特別メニューを考えたり又、一般浴が不可能な方は特殊浴槽の利用をするなど本人本位に検討している。	利用者本人や家族からの聞き取りにより一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握が困難であったり不確かな場合にもセンター方式を利用しながら医師を含めた関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合うという取り組みがなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	いまままで生活されていた一人ひとりの生活歴や馴染みや習慣になっている事、生活環境・これまでのサービス利用の経過等の把握に努めこれまでの暮らしのスタンスをあまり変えない様な環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方・心身の状況(食欲・顔色・活気等)有する力等の現状の把握に努め異常・変化があれば代表者・主治医に報告し指示を頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向にそって本人がより良く暮らすためのケアのあり方について必要な関係者と話し合いそれぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族、医師・看護師を含めた関係者と話し合いそれぞれの意見やアイデアをもとにして、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。一応利用者毎の担当職員は決めているが全ての職員が介護計画を把握して、職員全員で意見を交換しながらモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を個人の生活記録と医療面での記録に記入し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応し既存のサービスにとらわれない柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。同施設の小規模多機能型居宅サービスご利用の方を介護が必要な時、グループホームで介護をしたり体験を受け入れたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暮らしを支えている地域資源を把握し本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう地域の行事に参加したりスーパーに買物に行ったり定期受診に病院へ行くなど外出等を行うなどの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	主治医の先生の往診と2週間に1回の定期受診を受けている。急な状態変化があれば随時の電話相談や緊急往診も受けられる。1週間に1回主治医が来所してくれてケアカンファレンスを行うなど主治医と事業所の関係作りを行っている。	認知症専門医でもある関連医院の医師が利用者全員の主治医となっており、2週に1回の定期受診の他往診も受けている。歯科受診については家族に依頼しての実施である。週1回のケアカンファレンスには主治医に出席してもらい関係の強化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に4日(月・火・木・土)担当の看護師が来所しご利用者の様子・状態変化等を診て主治医に報告し個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まだ、入院された方はいませんがご家族様が病院からアドバイスや指示を受けたり退院後のケアについての指導をうけたりした事について出来るかぎりの支援をする予定です。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービスご利用時に看取りに関しての伺い書を頂き重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から本人・家族等と話し合いを行い事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に本人・家族から聞き取り、文書化している。しかし段階に応じて方針に変化が生じ得る事から、事業所は本人・家族・主治医等とその都度話し合いを重ね得られた方針を関係者と共有しながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え緊急連絡体制があり全職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に勉強し実践力を身に付けており全職員がだれでも即座に緊急時の対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回ご利用者と一緒に地域の協力を得て避難訓練を行い消防の指導を受け安全に避難できる方法を全職員が身につけている。	大がかりな避難訓練は年2回消防の指導を受けると共に地域のボランティアの方々の協力を得て実施している。また利用者と職員による小規模な避難訓練は月1回行われている。訓練を通して利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員はご利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの重要性を認識しており排泄の失敗や着替えなど他者に知られない配慮や声かけをするなどその方の誇りやプライバシーを損ねない様な心配りに努めている。	利用者一人ひとりの人格の尊重の第一歩として、氏名による言葉かけを事業所の方針とし、全職員が厳守している。職員各自が誇りやプライバシーの保護を常に念頭に置くと共に、ミーティング等での話し合いを通してしっかりと確認しながら、日々のケア実践に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を表したり自己決定ができるように声かけする時は「～しますか」「～はどうですか」等疑問符をつけた声かけをし自己決定して頂けるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合ではなくその方の体調や一人ひとりの気持ちやペースを大切に考えその日をどのように過ごしたいかという希望に応えられるような支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回 理美容の方が来所し希望があれば散髪を行っている。又、外出時はその人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう食事の献立をみんなで考え食材の買い出しに一緒に行き調理はキッチン周りにみんなが集まり調理をみんなで行う。最後配膳するまでをほぼ全員で行っている。食器洗いも食事が終わった方から順に洗って頂き出来ない方の分もできる方が助けている。	食事の献立や食材の買い出しについては利用者と職員が一緒に考え、出掛けている。包丁を使つての調理、盛付け、味見等をほぼ全員の利用者が分担して行っており、食事中はめいめいが感想を出し合う等楽しい雰囲気のある食事となっている。食後の食器洗いの時などは和やかに順番を待つ光景がみられ利用者の張り合いや自信を感じる事ができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養のバランス・水分摂取量が1日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力・習慣に応じた支援をしている。自力摂取が困難な方に関しては個別に食事量チェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れやにおい生じないよう毎食後一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。(ポリデント 洗浄や液体の歯磨き剤を使用したりうがい薬で毎日口腔ケアを行っている。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし1人ひとりの力や排泄パターン・習慣を活かしてトイレで排泄の自立に向けた支援を行っている。紙オムツを使用していた方が使用しなくてもよくなった方がいます。	全ての職員がトイレでの排泄は可能であるとの前提に立ち、一人ひとりの排泄が困難な要因をチェックしながら個別の排泄支援に取り組んでいる。失禁時にはもちろんの事、尿意・便意の確認やトイレ誘導の際には、プライドを傷付ける事がないよう十分に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。主治医の指示のもと 排便コントロールが上手く出来ています。又、ご家族様がヤクルトやヨーグルトを持参されている方もいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに個々に応じた入浴の支援をしている。又、外出や外泊予定の方や体調不良の時は体調が整い次第入浴して頂いている。又、季節によって菖蒲湯・ゆず湯・みかん風呂なども楽しまれている。	利用者の羞恥心や恐怖心を正しく理解し、無理強りする事なく、一人ひとりの意向を第一にしての入浴実施であり職員のローテーションによる制約はない。抵抗感のある利用者についてはタイミングを図って、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。季節に応じての菖蒲湯・ゆず湯・みかん湯等の工夫は入浴がより楽しくなると、利用者に好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて休息したり安心して気持ちよく眠れるよう支援している。夕食後、パジャマに着替え入れ歯の洗浄を行った後、就寝まで居室でテレビを見て過ごされたり居間で他のご利用者とお話されたり就寝前の団らんを楽しまれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりが使用している薬の目的や副作用・用法や用量について理解しており服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。服薬介助は慎重に行い確実に服用して頂くように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように1人ひとりの生活歴や力を活かした役割・嗜好品・楽しみ事・気分転換等の支援をしている。又、グループホームの庭の花壇に春は野菜や花を植えたり1人ひとりの得意分野で活躍できる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりのその日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段行けない様な場所でも本人の希望を把握し家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。散歩・買物・ドライブの他、生家が見たいというご利用者にはご家族にご協力を頂き希望を果たす事ができた。	利用者一人ひとりのその日の希望にそって、ホーム周辺の散歩に出掛けている。墓参り等の普段は行けないような場所への外出は本人の希望を伝え、家族の協力を得て実現している。事業所の行事である花見や遠足等については利用者の希望を把握すると共に、全員の参加に無理のない行程を組み、家族及び地域のボランティアの方々からの積極的な協力を受けての実施である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はご本人がお金を持つ事の大切さを理解しており、1人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり使えるように支援している。一緒に買物に行ったり外出時、ご自分の財布を持ちご希望のものを自分で買って頂きおつりを受け取るまで職員が見守りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に年賀状を書かれたり暑中見舞い状を書く機会を作り息子さんと娘さんに書いておられる。電話はご自分ではかけられないがご本人の強い希望で取り次ぐ時もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関・廊下・居間・台所・食堂・浴室・トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音・光・色・広さ・温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関・廊下・居間・台所・食堂・浴室・トイレ等)は利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音・光・色・広さ・湿度など)がないように配慮し生活感や季節感を採り入れて居心地良く過ごせるような工夫をしている。換気やエアコンの調整には十分気を付け飾り棚には季節の物を置くなどの心配りをしている。	音や光の刺激が利用者のストレスにならないよう全職員が日常的に注意を払うと共に、利用者や家族、外来者等の感想を聞きながら、居心地良く過ごせる空間づくりに努めている。生活感のある飾り付けや装飾品が家庭的な雰囲気を醸し出しており、ホールの外の菜園に植えられた季節の花や野菜は季節感を大いに盛り上げ、利用者は収穫を心待ちにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。一人ひとりの状態に合わせて居心地良く過ごして頂けるよう時にはスタッフが利用者間を取り持ちたり繋げたりしながら良い関係をつくるなどの配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものを活かして本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。又、ご本人の若い頃の写真や思い出の深い物(例えば 愛犬の写真 連れ合いの形見 など)を持って頂き、ご自分の家と変わらない様な配慮を心掛けている。	居室は、プライバシーに十分配慮しながら、自宅との違いから生じる不安やダメージを最小にする為の工夫を個別に行っている。本人や家族と相談しながら、寝具、タンス、仏壇、写真等の使い慣れた馴染みの物の持ち込みを依頼し、利用者本人がその人らしく落ち着いて過ごせる部屋づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして安全かつできるだけ自立した生活を送れるようご自分のものはご自分で管理できないことは支援している。年間の日めくりをみんなで作り日にちと曜日を毎日付け替えている。		